



真宗高田派本山 専修寺  
高田 本山だより

令和7年 春号

141



高田本山 HP

令和7年春号(第141号) / 発行・令和7年3月1日 / 〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



お七夜  
大賑わい



本年のお七夜は近年にない賑わいでした。  
数々の行事、説教、催し物には、たくさんの参拝をいただくことが出来ました。また「専修寺竹あかりくやすらぎの光く」には、夜遅くにもかかわらずお御堂にも、多くのご家族がお越しいただきました。

## 報恩講、こんな催しがありました

一月九日から十六日まで、報恩講が勤まりました。報恩講は一月十六日の宗祖親鸞聖人の御命日まで、そのお徳を偲びつつ七昼夜お勤めをすることから「お七夜」と呼ばれ親しまれております。期間中はいろんな行事が行われ、たくさんの人でにぎわいます。

## 日中・御親教・復演

1月15日の日中には御親教と復演が行われ、多くの参拝者をご聴聞されました



## 法主褒章授与式

1月15日には法主褒章授与式が行われ、法主殿により東京組正福寺住職(故)英法悦師に対し、表彰状と副賞が授与されました。英師は関東別院輪番として活躍されました。



## 責任役員会

1月10日には御影堂にて責任役員会が行われました。

高田派末寺の責任役員、約二百名が出席され、法主殿のお言葉、宗務総長挨拶に続き、庶務・教学総務より本山の運営についての報告がありました。



## 特別講演

1月13・14日には如来堂において特別講演が行われました。13日は「アジャセの救い」の講題で津市青巖寺住職 清水谷正尊師、14日は「普くもろもろの衆生と共に―凡衆の仏道―」の講題で多気郡明通寺住職 佐波真教師にお話いただきました。



## お七夜婦人連合会

1月11日にはお七夜婦人連合会、15日にはお七夜婦人連合会初夜参詣が行われました。三名の方により献花・献灯・

献香が行われ、厳かな空気の中、真宗の教えに出遇えた喜びを分かち合いました。



## お七夜献書展

お七夜期間中、大玄閣廊下では献書展の作品が展示されました。三重県内と北海道から約三十教室、六五七点の力作が届きました。



## 展こう描とまのの

重要文化財の御対面所では、高田派仏教保育協会の園児たちが、ほとけさま(ののさま)を描いた作品が展示されました。今回は十六園から三六五点の力作が届き、多くのご家族で賑わいました。



## 高田中高等学校校演奏会

1月9日に御影堂では、高田学苑の音楽部・吹奏楽部・箏曲部・放送部による合同の演奏会が行われ、たくさんの方の参拝者から惜しみない拍手が送られました。



## お七夜布教大会

報恩講期間中、大講堂ではお七夜布教大会が行われました。今回は三回目の開催となりますが、歌や絵解き、紙芝居など従来の布教にとらわれないかたちをとりつつも、しっかりとご法義が伝わるスタイルがとて好評でした。



## ～専修寺竹あかり～やすらぎの光～

報恩講期間中の境内では、一身田小学校をはじめ高田派関係の幼稚園、保育園などのこどもたちの塗り絵を入れた、こども竹あかり約一五〇〇本と、この度初めての一般募集を含んだ、合計約三〇〇〇本の光の芸術「専修寺竹あかり～やすらぎの光～」が開催されました。

一月十日から十二日には雅楽クラブ「雅」演奏会も同時開催されました。親鸞聖人の御命日の前日、一月十五日の夜は境内が二十三時三十分まで解放され、家族連れやSNS向けの写真スポットで記念撮影をする人たちが遅くまで賑わいました。



# 攝取不捨の徳



「十方微塵世界の念仏の衆生をみそなはし攝取してすてざれば阿弥陀となづけたてまつる」

この和讃は阿弥陀如来の名の由来を示し、「攝取不捨の徳」つまり一度その光に包まれた者は決して捨てられない慈悲のはたらきを教えてくださいます。

今から4年前、人生の迷いの中で阿弥陀様の教えにふれ、救われる経験をしました。

私はお寺の生まれではありません。高校教師の父と、お茶工場で働く母に育てられました。20代で独立するも現実は一層厳しく、不安定な毎日。虚勢を張り、ときに嘘をつき、家族や多くの人を傷つけてきました。頑張っても出口は見えず、悩んだ末に会社をたたみ、後悔と言いつつ

中でもかくように日々を過ごしてまいりました。そんなとき、ご縁をいただき、願隆寺住職から阿弥陀様のお話を伺う機会を得ました。

「阿弥陀様は、罪悪深重の凡夫— 迷い、過ちを重ねる私たちを救ってください。阿弥陀様の光は、今もあなたを照らし続けています。苦しい時も、決して一人ではありませんでした。」

そう教えていただいたとき、「罪悪深重の凡夫」とはまさに自分のことだと胸を突かれました。

どうしようもない自分を見捨てず、ずっと寄り添い、はたらきかけてくださっていたのかと思うと、ありがたくて胸が熱くなりました。

「必ず救う、まかせておくれ。」

その阿弥陀様の声に心を傾けたとき、自然と「南無阿弥陀仏」とお念仏がこぼれました。

固く閉ざっていた心に、阿弥陀様の光が届いた気がしました。お念仏はとても温かく、優しく胸に響きました。

それ以来、お念仏の日々が始まりました。

朝起きたら「南無阿弥陀仏」。食事のときも、辛いときも、嬉しいときも「南無阿弥陀仏」。

お念仏をするたびに、「阿弥陀様がともにいてくださる」と感じ、心が満たされます。

阿弥陀様の光に照らされて生きる今に感謝し、これからも聴聞を重ねながら与えられた人生を大切に歩んでいきます。

愛知一組 願隆寺

衆徒 新田樹心

御本山御用達

## 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075) 371-0854・8181~2番  
FAX (075) 344-2701番  
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年

## 松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150  
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

「凡夫」ってなんですか？

最近、浄土真宗の教えを聞きはじめた友人に、こんなことを言われました。「浄土真宗のご法話ではいつも、この私は自分勝手に愚かな凡夫と聞かされる。確かにそういう一面もあるかもしれないけど、私はそんなにダメな人間か？」と。

親鸞聖人は『一念多念文意』に、「凡夫」というのは、無明煩惱われらごみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおおくひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえず：（『真宗高田派聖典』七一五頁）

と述べられ、いのち終わる時まで煩惱から離れることのできない「凡夫」というものが、私の本当の姿であるとお示しになります。考えてみれば、ずいぶん厳しいお言葉です。

人はみな、良いところもあれば悪いところもある。私にも悪いところはあるけれど、そればかりではない。友人の言葉は、そんな思いから出てきたのかもしれない。

ただ、その良い・悪いも、結局は私の物差しに過ぎません。阿弥陀さまがお覚りの眼でご覧になった私は、すべてにおいて自分本位に考え行動しながら、そうと気付かず、自分で自分の悩み苦しみを作り出しているのです。阿弥陀さまは、そんな私こそを救いの目当てとしてくださるので。

この「凡夫」というお言葉は、阿弥陀さまがご覧になった、私の姿です。親鸞聖人はそれをお示しくださっています。私が思っている「私」はそれなりに真つ当な人間ですが、阿弥陀さまがご覧になる「私」は、まるつきり煩惱具足の凡夫なのです。私が思っている「私」と、阿弥陀さまがご覧になる「私」は、まったく違うのです。

しかし一方で、親鸞聖人は『入出二門偈頌』にこのようにおっしゃいます。

煩惱を具足せる凡夫人、佛願力に由りて摂取を獲。  
この人は即ち凡数の摂に非ず。これ

人中の分陀利華なり。（『真宗高田派聖典』五〇七頁）

阿弥陀さまのお慈悲のおはたらきによって自身を凡夫と聞き受けた者は、煩惱を抱えていることには変わりはないけれど、そのことを恥ずかしいこと、申し訳ないこととして、生き方を軌道修正しようという心が育まれることでしよう。

その人は、もはや凡夫ではなく、分陀利華（白蓮華）の淨らかな花のように尊い存在であると、親鸞聖人は讃えてくださいます。

「凡夫」とは、私の現実を突きつける厳しいお言葉であると同時に、そんな私こそが救いの目当てであることを告げてくださる、阿弥陀さまの温かいお慈悲のお言葉でもあるのです。

（教学院第三部会）



伝統を引き継ぐ左官職人舎

一層築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 左官工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : https://tutikabe.net/

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

●本社

0008768

京都市下京区堀川通

新花屋町角（西本願寺前）

TEL 075-351-1234

FAX 0120-0757-720

●東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

二栄町十四番地三

TEL 03-3358-1500

FAX 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →



「燈炬殿だより」  
宝物館の展示「春をことほぐお寺の宝」開催によせて

高田派には、真宗の教えを紐解く  
に当たって重要な法宝物のうち、約  
四割が伝わっています。そしてその  
背景からは、真宗の教えを大切に守  
り抜かれた、多くのお弟子さんたち  
の熱意というものを伺い知ることが  
できます。

また、高田派には中興真慧上人に  
よる『顕正流義鈔』など、教えを深  
める上で重要な書物も多くあり、旧  
宝物館で大切に保管されてきまし  
た。

一昨年、令和五年  
は、開山親鸞聖人御  
誕生八百五十年、立  
教開宗八百年、中興  
真慧上人五百年忌、  
聖徳太子千四百年年  
忌と、真宗高田派に  
とって大変意義のあ  
る節目の年となり、

本山専修寺では、特別法要が営まれ  
ました。その記念事業の一つとし  
て、老朽化した旧宝物館を新たに建  
て替えることが行われ、令和五年五  
月二十日、宝物館「燈炬殿」として  
開館いたしました。

さて、専修寺の歴代上人は、しば  
しば茶会を開催された圓遵上人をは  
じめ、文化にも深い造詣をお持ちで  
した。また、伏見宮家や有栖川宮家  
をはじめとする皇室とのご縁もあつ  
て、皇室の雅を感じさせる数多くの  
優れた美術・工芸品が専修寺には  
集まってきました。



鶴亀松竹梅置物



円山応挙筆 漁夫図

幸い学習院大学文学部哲学科美学・  
美術史専攻の先生方や学生・大学院  
生の皆さんの全面的なご協力を得る  
ことができ、一昨年より、これら収  
集品の悉皆調査が開始・継続されて  
います。その成果の一部は、すでに、  
昨年夏に本山中で開催の仏教文化講座  
に併せた特別展観「学山高田の文化」  
で展示させていただきました。

今回は、その第二弾として、「春  
をことほぐお寺の宝」専修寺文化財  
調査の報告」というタイトルで特別  
展観を開催することとなりました。  
(会期は、令和七年三月十三日より  
五月十一日)。

春らしい雰囲気を持つものだけで  
展示室を埋めることが出来るほど新  
たな発見が相次いでいることをご覧  
いただければと思います。

今回の展示品の中には、江戸時  
代中期に活躍した画家円山応挙

ええじゃないか  
〜いい旅いい発見〜  
毎週月曜日 よる7時  
(毎週土曜日 ひる12時再放送)  
TVで見逃し期間中!

ニュース情報番組  
Mieライズ  
毎週(月)~(金)  
夕方5時40分から生放送  
三重テレビアプリで  
簡単メッセージ!

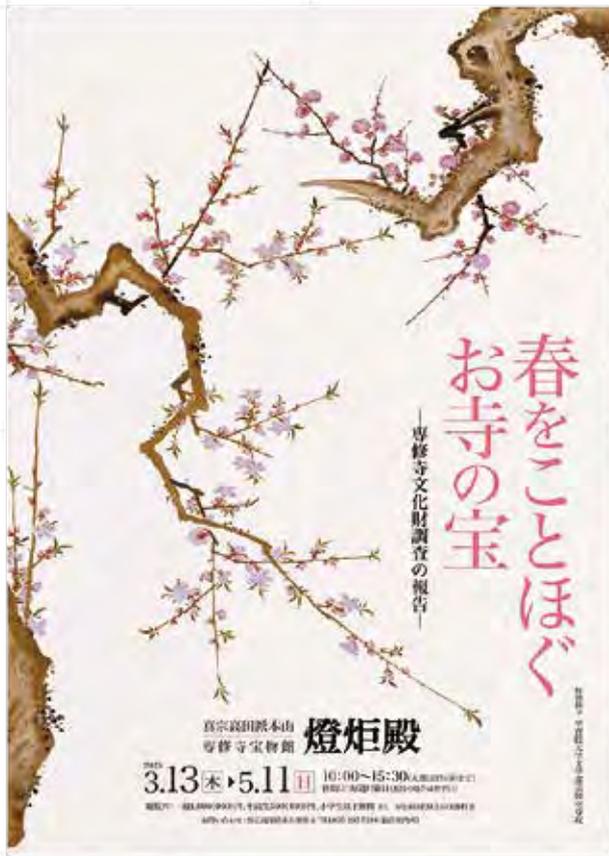
三重テレビ放送

遠山御用達  
御推薦  
山本御用  
高田重三  
石記念  
碑燈籠  
高級御影石専門店  
御影石材株  
(石に御用の方は) イシニゴヨメ  
0120-142540  
本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

(一七三三～一七九五)による「漁夫図」があります。学習院からいただいた解説には、「同じ図様の作品が複数あるが、諸特徴から本作はそれらに先行する時期の作と考えられる。本寺に伝わる茶会記には近衛家より応挙の作品を拝領したと記されており、本作が該当する可能性がある。」とあります。優れた芸術品であることと同時に、本山と皇室と

の密接なつながりをも伝える作品となっており。また、鶴亀松竹梅置物は、やはり江戸時代のものですが、金や銀を素材に、鍛造・象嵌などの精緻な技法を用い、松竹・鶴亀・宝尽くしをちりばめて、めでたさが表現されています。今回の展示が、京都の日の野の里で春にお生まれに

なった親鸞聖人をことほぐものとなれば、幸いです。また九歳の春に「明日ありと思ふ心の仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」という歌とともに得度された親鸞聖人の仏への帰依のご覚悟に思いを馳せていただければ幸いです。宝物館燈炬殿 館長 大野照文



開館時間：10・00～15・30 (入館は15・00まで)  
 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)  
 観覧料：一般1,000円(900円)、中学生500円(400円)、小学生以下無料※( )内は10名以上の団体料金  
 お問い合わせ：真宗高田派本山専修寺 TEL 059-123217234 (総合案内所)

## ■高田本山講員募集■

高田本山では、本山行事等にお世話いただく講社の講員さんを募集しております。講社とは檀信徒で構成する本山奉仕団体です。真宗のみ教を学びながら、第2の人生を本山にご奉仕してみませんか。

### 募集要項・奉仕内容

講社名	奉仕内容
御飯講	毎朝の御仏飯のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備
御廟講	納骨に関するお世話・行列のお世話
賽銭講	両堂のお賽銭の管理・両堂警備
用度講	行列のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備

※高田本山内で当番制のご奉仕となります。  
 ※9:00～15:00(講によって奉仕時間が異なります)  
 ※高田派の寺院に所属する檀信徒に限ります。詳細は下記へ問い合わせ下さい

問い合わせ先 〒514-0114 津市一身田町 2819  
 真宗高田派本山宗務院 ☎(059) 232-4171

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信や  
 プロモーションをサポート！

三重に暮らす・旅するWEBマガジン  
**OTONAMIE**

otonamie | 14,500フォロワー突破！  
 mail otonamie@gmail.com  
 tel 059-268-3538 (善印刷工業株式会社)



お寺の実績  
 紹介記事

お寺とともに  
 地域をつくる。

## 永田文昌堂

最新刊

①東西本願寺 120のちがい

鎌田 宗雲著 定価3,300円(税込)

主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・荘厳・勤式・作法など120項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主にお東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

最新刊

②値遇のこころ

川添 泰信著 定価1,100円(税込)

本願寺の新報、または小冊子や、大学における揭示伝道の標語の解説などをまとめた法話集。主な内容として、お辞儀と礼拝 / 握手と合掌 / 「偲越」と「ジョーク」 / 蜘蛛の糸 / 安穩の未来 / 浄土真宗のお彼岸 / この世にて / など。

## こんな行事を 予定しています

宗祖親鸞聖人御誕生 850 年  
立教開宗 800 年 真宗教団連合成 50 周年記念事業  
真宗教団連合三重県支部結成 50 周年記念大会のご案内

このたび上記を記念する大会を開催することとなりました。

主催は真宗教団連合三重県支部、会場は高田本山の御影堂です。

ご講師は『親鸞万華鏡（東本願寺出版）』の冒頭に登場する武田鉄矢氏、MC は英月氏です。

日 時 令和 7 年 5 月 10 日（土）午後 13 時 30 分～  
場 所 高田本山 御影堂

入場には整理券が必要となっております。  
詳細は寺院配布のチラシ、または真宗教団  
連合 HP をご覧ください。



真宗教団 HP

## 法 会 ・ 行 事 案 内

- 第七十六回檀信徒研修会 三月十三日
- 涅槃会 三月十五日～三月二十日
- 平等院殿三年忌法会 三月二十六日～二十七日
- 讚佛会 三月十七日～二十三日
- 中学生教化合宿 三月三十一日～四月二日
- 千部法会 四月六日～十一日
- 十万人講法会 四月九日～十日
- 戦没者追弔法会 四月十一日
- 花まつり・山門特別拝観 四月二十日
- 興学布教研究大会 四月二十九日
- 第二十三世堯禎上人三十三年忌法会 五月六日～八日
- 親鸞聖人降誕会・初参式 五月二十一日

※涅槃図公開・山門特別拝観・初参式など感染症の状況により変更または中止にする場合があります。  
詳しくはホームページをご確認ください。

(<http://www.senjufu.or.jp/>)



前回の 40 周年記念の様子

## 県内最大級の大涅槃図

三月十五日はお釈迦様が涅槃に入られた日として、涅槃会が勤まり、大涅槃図の公開と絵解きも行われます。

高田本山の大涅槃図は、絵の部分が縦約五メートル五十、横が約四メートル、畳約 20 畳分（江戸間）という大きさで、東海最大級の巨大な涅槃図です。

（場所：如来堂・拝観自由）  
公開期間：三月十五日（土）から三月二十日（木・祝）

時間：六時～十五時三十分  
絵解き（大涅槃図の解説）

三月十五日（土）～十六日（日）十一時～十三時

三月二十日（木・祝）十一時～十三時  
※詳しくはHPなどをご確認ください

寺院名



YouTube 専修寺チャンネル

国宝 国庫 誰でもつながる国宝彫刻群

高田本山 デジタルブック 検索

<http://www.seijijyo.or.jp/hokumaku/digitalbook/nae.html?No=1>